

2024. 11. 29 好きの広がりによって、周囲の環境への見方が変わる

鉄棒遊びが広がっている年長児。いろいろな技を自分たちで考え、レベルに分けたり、挑戦したりしながら楽しんでいます。10月終わり頃から続いています。今もなお「先生！こんな技を考えたよ！」と子供たちは新たな技をつくり出しています。

そして、最近ではそのつくり出した技をつなげてやることを楽しんでいる子も出てきました。

「王様座り→王様座り手ばなし→王様すわりまわり→こうもり→こうもりふり→地球回り」というように、地面に足を付けずに連続で技をやっていくことが楽しい様子でした。

そこで、連続技ボードを出してみました。自分で小さな白い画用紙に技の名前を書き、それをつなげていきます。一つ一つ技をやってみながら、連続技を作っていきます。

A子が考えたのが、「つばめ→腕くみこうもり→こうもり→ぶたのまるやき→地球回り→空中さかあがり」という連続技。

でも実際やってみると、「地球回り→空中逆上がり」のつなげがA子なりにどうしてもできないことに気がきます。地球回りは逆さ状態ですし、空中逆上がりはつばめの状態で体を起こしていないといけません。そこでA子は地球回りのあとに「つばめはしる」の技を入れます。技カードの後ろには磁石が付けてあるので、自由に技の順番をかえることができます。どっちにしても体を起こしていくのでやることは一緒なのですが、A子なりにつながりを工夫し、納得しながら連続技をつくり出していく姿がとても素敵でした。その様子を横で年中児の男児らが真剣に見ていて、真似をしようとしていました。また新たな広がりもあるかもしれません。

一方遊戯室では肋木のところの前で、ホワイトボードにいろいろと書き込む姿が見られます。一昨日よりY男が「肋木でも新たな技ができるんじゃない？」と考え始めました。ホワイトボードを用意すると、考えた技をどんどん書いていきます。「先生！『とけいさわり』って技を考えたよ！レベルはMAXね！」とA男。「5のところを触れたよ！次は3に挑戦！」と面白い（肋木のある壁の上に時計があります）。N男は「これは『マックス』って技なんだ！」と肋木に登りながら胸に手を当ててポーズをとります。「マックスってなんだろう？」と教師が考えていると、それを見て嬉しそうに「マックス」を真似するM子。さらには年中さんも入ってきて、肋木で逆さになってみたり、手と足を広げてみたりといろいろな技を考えていきます。1時間ぐらい肋木で遊んでいたでしょう。「先生！手が赤くなったよ！」と見せてくれます。手のひらに豆ができつつあります。それぐらい夢中ががんばっていたのでしょう。

いつも遊戯室の後ろにある肋木。何気なく登って遊ぶ子も多くいます。今、鉄棒でいろいろな技を自由につくりだし、好きを広げながら自分たちで遊びをつくり出している経験が、他の環境、遊びにおいて、そのモノに対する見方に変化をもたらしているような感じがしました。「肋木でこんなこともできるんじゃない？」「こんなこともできそう！」と子供たちなりのアイデアが入っていくことで、肋木の可能性を生み出し、さらにその環境としての価値も高まっていく感じもします。そのような遊びの広がりをこれからも大切にしていきたいです。



